大学教育センター ニュースレター

2017.06.28
第 1 巻　第 1 号

東京農工大学 大学教育センター
http://web.tuat.ac.jp/~ched/　e-mail/ched-1@cc.tuat.ac.jp

この号の内容

1 センター長就任挨拶

2 GPP2017

3 「入選研」スタート

4 新任教職員研修を終えて

5 センターメンバー紹介

「誰のためのセンターか」をいつも頭の中央に置きながら，教育力と学生の満足度の向上に邁進します

センター長就任挨拶

大学教育センター長　梅田倫弘

この４月より大学教育センター長を拝命いたしました，教育担当理事の梅田です．教育センター長は，平成 20，21 年度に担当して以来８年ぶりですので，やや浦島太郎状態ですが，よろしくお願いいたします．当時はセンター長と理事は，現在のように兼ねておりませんでしたので，両学部の教育に関する様々な課題を迅速に受け止めて様々な施策を提案・実行していたのを記憶しております．

さて，本センターが平成 16 年度に設置されて 13 年が経過しました．発足当初は，教育と研究組織を分離する部局化構想を進めるため学部教育を担保する組織として本センターの設置が認められて，様々な活動が推進されてきました．特に，3 部門制を取りながら，各部門には複数名の専任教員（発足当初は全国から教育に関する専門家を公募）と両学部から 4 名の兼務教員が選出されて多くの課題や教育に関する施策を両学部に提案・実行していきました．センター構成教員は，多いときで 17 名の専任・兼務教員の陣容を擁し，両学部の教員が教育という一つのテーマで論じる時空間を共有できたことは本センター設置の目に見えない財産だったような気がします．

その後，時の流れと共に，国立大学法人を取り巻く環境も大きく変わり，学内の各センターもそれに応じて改革が迫られ，平成 23 年度末に「センター組織の改革について」が取り纏められました．その中で本センターは，業務の縦割りの弊害をなくすため部門制を廃止し、教育を通じた「学生支援全般」と業務を捉え，「学生の入り口から出口まで」を包括的に支援出来る組織とすることが提言され，現在に至っています．

組織の最適化は様々な内因的，外因的要素でなされますので，部門制の廃止やセンター長と理事の兼務の方向性は十分妥当性のあるものと思っています．ただ，H23 年度の改革後，本センターと両学部に所属する教員との距離は以前に比べて離れつつあると言う声は，学部教員から聞こえていたのも偽らざるものだと考えております．そのため，もう一度，大学教育センター関係者一同，それぞれの役割を咀嚼して，「誰のためのセンターか」をいつも頭の中央に置きながら，本学の教育力と学生の満足度の向上に邁進していきたいと考えています．

今年度は
「宇宙（持続可能な社会）」
がテーマ

Global Professional Program(GPP)　in 2017

岩田 陽子

2016 年度からスタートした GPP では、現在、学部 2 年から博士後期 3 年まで、43 名の学生が活動中です。なお、先日、2017 年度第 1 回学生募集を行い、35 名の応募がありました（今年度は夏に第 2 回募集も予定）。

GPP では、国際社会で活用するうえで必要な「思考力」および「信頼関係構築力（英語力含む）」の向上を視野に様々なカリキュラムを提供しています。今年度は「宇宙（持続可能な社会）」をテーマに、科学的思考は当然のことながら、創造的思考や社会的思考を存分に発揮し、未来を見据えたアイディア構築にチャレンジしたいと考えております。完成したアイディアについては、アメリカの宇宙機関ＮＡＳＡにて発表する予定です。

また、意欲ある学生たちのニーズを正確に把握し、成長に向けて最善のアドバイスをするために、GPP 所属全学生に対して「キャリア・カウンセリング」を行っております。特に研究室に所属している学生については、適宜、指導教員の先生方と情報交換をさせていただき、研究活動を中心に置きつつ、GPP の活動で幅を広げられるようサポートするよう尽力しております。ぜひ、引き続きご支援賜りますよう心よりお願い申し上げます。

今後、GPP での具体的な成果につきましては、本ニューズレターにて、適宜、ご報告させていただきます！

「入学者選抜制度検討委員会」スタート

藤井 恒人

センター試験改革は
「記述式問題」と
「英語試験の 4 技能」
対応が目玉

新聞紙上、テレビニュースで話題にのぼる”大学入試改革”。5 月 16 日に大学入試センターから「『大学入学共通テスト（仮称）』記述式問題のモデル問題例」が公開されました。合わせて「『大学入学共通テスト（仮称）』実施方針（案）」も発表されています。「大学入学共通テスト（仮称）」は現行のいわゆる「センター試験」に替わるもので、現在の中学 3 年生が受験する平成 32 年度（実施は平成 33 年 1 月）に行われる入試が対象になります。

（大学入試センターホームページ参照：http://www.dnc.ac.jp/）

改革の目玉とされるのが「『記述式問題』の導入」と「英語試験の 4 技能対応」。前者は「知識・技能」に偏重しているとされる現行テストから、「思考力・判断力・表現力」を評価できる出題への変更が期待されています。また後者は新たに speaking、writing 技能のテストを加え、英語コミュニケーション能力を評価する方向性で進んでいます。そしてこの入試改革によって、試験前後の高校教育、大学教育を大きく方向変換するのが一番の狙いです。要するに知識基盤社会で生き抜いていくために必要な”考える力”を養成し、グローバル社会を渡り歩くための語学力、特に output の能力強化に舵を切っているわけです。

さて、このような時代の変わり目に、農工大の入試はどうあるべきでしょうか？　上記の改革の方向性は社会環境的に必要なことはわかりつつも、実施においてはクリアすべき課題が多く、今後大きな混乱が予測されます。そんな時だからこそ、農工大はアドミッション・ポリシーに基づいた、真の学力を問う個別入試を行うことが、高校生、保護者、高校教員に対する重要なメッセージになります。

この 5 月 9 日に発足した「全学入学者選抜制度検討委員会」が中心となり、平成 33 年の実施に向け、農学部、工学部と協働して新しい入試制度の導入にむけ検討を開始していきます。

※新制度入試に関する情報など、この欄を借りて発信していきます。

新任教職員研修を終えて

岩田陽子・馬渕麻由子

新任教職員 24 名が
キャリアや所属を越えて
一堂に会しました。

平成 29 年度の新任教職員研修を、4 月 19 日（水）に府中キャンパスにて人事課と共同で開催しました。平成 28 年度 6 月以降に着任された教職員 24 名がキャリアや所属を越えて一堂に会しました。

第一部は大野学長のご挨拶に続き、梅田教育担当理事から「本学の歴史と現状」として、農工大の様々な魅力や 140 年にわたる歴史が紹介されました。その後、事務手続き等のガイダンスに加え、研究倫理、情報セキュリティに関しても最新の情報を共有しました。また馬渕から「メンタルヘルス、学生との関係づくりのコツ」と題して学生対応についての説明を行いました。参加者の高い関心がうかがえました。

第二部は教員と研究員を対象としたプログラムとなり、工学研究院の三沢先生より科研費獲得のコツ、先端産学連携研究推進センターの和気先生より外部資金獲得についてのレクチャーがありました。すぐに使える貴重な情報が満載で大変好評でした。

第三部は大学教育センター企画として岩田のファシリテートで「教育改善のためのワークショップ」を行いました。「真の学び」のための授業づくりをテーマに、班に分かれてディスカッションと発表を行いました。あらためて「学び」とは何かを考える機会になったと思います。

この研修は教職員が所属や職種の垣根を越えて交流し、東京農工大学の理念を理解する貴重な場となっています。参加者それぞれが、学生の教育および大学発展のための重要メンバーとしてのアイデンティティを培うことができるよう、今後も魅力あるプログラムを企画していきたいと思います。

2017 年度大学教育センター 教員自己紹介

4 月より新体制になりました。よろしくお願いします。

センター長　梅田 倫弘 理事・教育担当
農工大にお世話になって今年で早くも 30 年が過ぎました．その間に大学の取り巻く環境も，そして大学も大きく変容しています．そんな中で変わらないとすれば，大学は学生があって初めて大学であるというごく当たり前のことです．でも，それが当たり前でなくなる時代がジワジワと押し寄せています．この流れに対応するには，本学の立ち位置をしっかりと見定め，より時代に即した教育を提供することが肝要でしょう．

副センター長　藤井 恒人 教授
普段は高大接続、入試広報を主に担当しています。自然環境に恵まれた田舎で育ち、小５でアマ無線の免許取得、写真は自宅で現像、高校ではマイコン自作、そんな自分にとって今の農工大の環境はこの歳でも胸躍ることばかりです。そんなワクワク感を持った高校生が多数志望してくれる大学を目指し、教育、研究の発展に少しでもお役に立てればと思います。私的にはもう少し走る時間を確保したいです。

岩田 陽子 准教授
今年度で着任 3 年目を迎えました。着任前は、約 15 年間に亘って、企業や研究機関での理工系グローバルリーダー育成に携わっておりました。現在の最大の関心事は、「トランス・サイエンスへの思考力をどのように構築していくか」という点にあります。今後も、最先端の教育の在り方について試行錯誤しながらリサーチを続け、農工大の教育に貢献してまいりたいです！

安村 友紀 講師
高校の時に 1 年の語学留学のつもりで行ったイギリスに、18 年滞在してポスドクまで経験しました。研究テーマは陸上植物の進化でした。私なりのサイエンスの理解とグローバル意識を生かし、先生方のイメージされる教育が実現できるようなサポートができたらと思っております。着年 2 年目ですが、緑ゆたかな両キャンパスにとても愛着を感じております。よろしくお願いします。

村山 真理 特任准教授
もともとは英語教育のカリキュラム開発と教員トレーニングが専門ですが、グローバルリーダー育成に携わって 10 年になります。現在は、グローバル・プロフェッショナル・プログラムで英語・コミュニケーション・リーダーシップの 3 つの側面から学生をサポートしています。学生の研究内容は興味深く、理解を深めることでより良いサポートを実現して行きたいです。ご指導お願いいたします！

市川 桂 特任助教
三大学協働共通教育プログラムを担当しています。三大学協働基礎ゼミや英語開講科目、英語力向上推進プログラムの実施を通じて、農工大で学ぶみなさんにより広い視野や実践的な英語力を身につけてもらいたいと思っています。これまでに一定の成果を挙げることができたのは、先生方のご理解とご協力の賜物です。今後ともよろしくお願いします。

馬渕麻由子 准教授（特別修学支援室担当）
保健管理センターから当センターに籍を移し早 3 年目を迎えました。日々、学生の悩みに耳を傾けながら、学生の心の成長も大学教育の在り方と密接に関連していることを改めて強く感じています。障害に限らず多様性に富んだ学生が十分に個々の力を発揮できるような、また教職員が安心して教育に力を注げるような支援体制づくりを心掛けていきたいです。

佐藤 友久 名誉教授・客員教授（特別研究員）
3 月で定年退職しました．今年度は客員教授として，引き続き高大接続や大学教育再生プログラムなどを担当させて頂いています．農工大は，教職員，大学の教育・研究環境も素晴らしいものが多くあります．それらを，高校生・教員・保護者に理解して頂けるように努力し，農工大志望者を増やし，本学の発展に少しでもお役に立てればと思います。

尾崎 宏和 特任助教
「グローバル科学技術人材養成プログラム」にて、高大連携教室を担当しています。これには、農工大で学ぶ日本人・留学生の現役学生にも参加してもらいますが、高校生と農工大生のどちらもモチベーションアップが進むようで、うれしく思います。私自身は、有害金属による環境汚染が専門で、環境問題に興味をもったのは、山に登る中でそういう意識をもちました。こうしたバックグラウンドも、連携教室の運営に役立てられればと思っています。

伊藤 輝将 特任助教
企業の研究開発部門に 7 年半ほど勤めた後、脱サラして農工大に参りました。主に電通大、東京外大、農工大をオンラインで結ぶ「三大学協働プロジェクト実習型講義」などの専門教育プログラムを担当しています。私自身も研究の現場に身を置きながら、学部・大学院の皆さんと同じ視点を持って専門教育の質向上に貢献したいと思います。専門は光科学、興味は「見えないものを見る」技術です。

東京農工大学 大学教育センター
〒183-8538
東京都府中市晴見町 3-8-1
府中キャンパス 本部・学務棟 2 階

電話番号:042-367-5882（教育企画課）

FAX 番号:042-367-5557

電子メール: ched-1@cc.tuat.ac.jp